

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

事務事業名		総合文化会館管理運営事業				事業番号	91	評価年度	令和7年度事業	
担当名		部名	課名	係名		優先度	B	シート区分	総合計画	
予算科目		会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	政策	おわたわら国造りプラン		No.
事業期間		一般会計	02.01.11	0022	01	00	施策	計画での位置付け		
							基本事業	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり		2
								(13)文化・芸術の振興		13
		□単年度 □複数年度		(~		年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 大田原市総合文化会館利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 文化の向上と市民福祉の増進を図り、市政発展に寄与するために設置された施設の円滑な運営を行うことを目的とする。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 文化会館の貸館業務及び舞台設備、給水配管、循環ポンプ改修等の施設維持管理を行う。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 広く市民に交流の場を提供することにより、市民福祉の増進、より良い水準での設備提供による質の高い芸術文化の普及促進を図る。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称		目標値の算出式(又は方法)		目標値		単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①貸館の貸出件数	貸館利用件数の累積	400	件			
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①利用者数		10,000	人				
		②稼働率		35	%				
		③							

3. 実行(Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	令和4年12月28日をもってホールと夜間の2階、3階の貸出しを中止した。 令和6年3月31日をもって文化会館の全ての貸出しを中止した。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
	事業費計		12,255	2,809		
財源内訳	財源	国庫支出金	0	0		
		県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		その他特定財源	0	0		
		一般財源	12,255	2,809		
(c) コストの対前年比				22.92%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	3	12
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	3		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	3		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	貸館の貸出件数	400	件	479	1	増加指標	119.80	%	a
②						算定不可		%	
③						算定不可		%	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	利用者数	10,000	人	6,212	1	増加指標	62.10	%	c
②	稼働率	35	%	33	1	増加指標	94.30	%	
③						算定不可		%	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	他の施設と調整を図るとともに、他の施設を紹介するなど努めます。		
	前年度から の改善結果	検討中	開館中は利用者の安心確保に努めながら、他の施設と調整を図り、利用希望者に他の施設を紹介した。	
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等	
	B	A	耐震工事が未実施で、非常用電気設備の不具合のおそれ等があり、施設利用者の安心が担保されない施設であったため、全ての貸館を中止にしたことが、市民の安心安全を守る行政の立場として、最良の決断だと考える。	

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	耐震工事が未実施で、非常用電気設備の不具合のおそれ等があり、施設利用者の安心が担保されない施設であったため、全ての貸館を中止にしたことが、市民の安心安全を守る行政の立場として、最良の決断だと考える。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

	事業番号	93	評価年度	令和7年度事業					
	優先度	B	シート区分	総合計画					
事務事業名	那須野が原ハーモニーホール管理運営事業								
担当名	部名	課名	係名						
	産業文化部	文化振興課	文化施設係						
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	No.	
	一般会計	02.01.13	0458	01	00	基本事業			2
事業期間	□単年度 ■複数年度			(~ 年度)					

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市民を中心とする施設利用者及び来場者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設利用者及び来場者に対し、芸術文化に触れ、自ら活動する機会を提供することを目的とする。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ホール及びギャラリーの貸出事業を行い、気軽に芸術文化に触れる機会を提供する。 自主事業の中で優れた芸術文化講演等を実施し、魅力を体感できる機会を提供する。 設備修繕、改修等を計画的に行い、より良い環境を利用者に提供する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 平成6年に開館したハーモニーホールの設備管理・施設利用の促進により、質の高い地域芸術文化の継続的な普及促進を図る。

(2) 指標設定	指標内容	指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
				活動指標	行政活動の結果からつくり出すもの
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	① 貸館事業の推進 ② 自主事業観覧者数 ③ 貸館利用率		700 9,000 65	回 人 %

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	自主事業の人数や貸館数などは、新型コロナウイルス感染症の影響がしばらく続いたが、徐々に回復しつつある。貸館の利用率で1.6%増、入場者数では約2万人増、自主事業入場者数で2,500人増と増加傾向にあるものの、コロナ禍前には戻りきっていない。さらに、旧大田原市と旧西那須野町が共同で建設したホールは平成6年開館のため、施設の老朽化、設備の経年劣化等に伴う大規模な改修、更新が必要となっている。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
	事業費計		231,323	263,985		
	財 源 内 訳	国庫支出金	0	0		
		県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		その他特定財源	0	0		
		一般財源	231,323	263,985		
	(c) コストの対前年比			114.12%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	3	12
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	3		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	3		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	指定管理者との打合せ	12	回	25	1	増加指標	208.30	%	a
②						算定不可		%	
③						算定不可		%	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	貸館事業の推進	700	回	950	1	増加指標	135.70	%	b
②	自主事業観覧者数	9,000	人	7,842	1	増加指標	87.10	%	
③	貸館利用率	65	%	62	1	増加指標	95.80	%	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		新型コロナウイルスの影響から徐々に回復しつつありますので、今まで慣例的に行っていた自主事業を止めて、地域の実情にあった催し物を皆様に提供していく。施設については、計画的に改修及び修繕していく。
	前年度から の改善結果	検討中	新型コロナウイルスの影響も徐々に回復していることから、現状の取組を継続するとともに、集客の工夫を凝らしていく。さらに、施設を計画的に改修及び修繕していく。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	B	A	新型コロナウイルスの影響が薄くなり、前年度よりも回復傾向にある。コロナ禍前の状況には戻りきっていないものの、今まで培っていたノウハウを活かし、地域の文化育成に貢献している。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	新型コロナウイルスの影響は未だあるものの、地域文化発展のために、厳選された音楽、演劇、美術等の提供を行い、集客を図るために広告宣伝などのPRをさらに考えていかなければならない。さらに開館から30年経過しているため、改修や修繕を行わなければならない箇所が多数ある。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	新型コロナウイルスの影響から徐々に回復してきていることから、今まで質より数の自主事業を数より質(子供向けや集客が見込めるもの)に変更して、地域の皆様により良いものを提供していく。施設については、計画的に改修及び修繕していく。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	B	開館から30年以上が経過しているため、財政状況を踏まえながら、計画的に改修や修繕を行い、これからも地域文化の発展のために良質な音楽、演劇、美術などを提供し、SNS等を利用して集客に努める。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

		事業番号	269	評価年度	令和7年度事業	
		優先度	A	シート区分	総合計画	
事務事業名	文化財保護事業				計画	おおたわら国造りプラン
担当名	部 名	課 名	係 名			No.
	産業文化部	文化振興課	文化財係			
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	政策
	一般会計	10.05.01	0281	01	00	策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度		(令和6 ~ 令和10 年度)		
				施策	(13)文化・芸術の振興	13
				基本事業		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対 象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 埋蔵文化財発掘調査事業／緊急確認調査、保存目的確認調査(推定東山道駅路跡・磐上駅家等所在確認)
	目 的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 埋蔵文化財発掘調査事業／市内の開発行為に伴う緊急確認調査、東山道及び侍塚古墳周辺の保存活用のため。
	手 段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 埋蔵文化財発掘調査事業／「遺跡分布地図」をもとに発掘による遺跡確認調査を行う。
	成 果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 埋蔵文化財発掘調査事業／侍塚古墳周辺地域の価値を明らかにするとともに、地域の活性化が期待できる。

(2) 指標設定	指 標 内 容		指 標 名 称		目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位	
	活動指標	行政活動の結果からつくり出すもの	①	埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の箇所	埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の箇所数		3	箇所
②								
③								
成果指標		事業実施による最終的な成果・効果	①	埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の報告書作成	報告書作成		3	件
			②					
			③					

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	埋蔵文化財発掘調査事業／(令和元年度～5年度実施) 保存目的調査実施箇所は、佐良土上の原Ⅱ遺跡で、調査期間は令和5年9月11日から11月23日まで行った。調査の結果、溝状遺構、掘立建物跡、竪穴建物跡を確認した。 開発行為に伴う緊急確認調査は薄葉上ノ台遺跡及び岩船台遺跡、佐良土上の原Ⅱ遺跡(土地改良事業)とその隣接地及び蜂巣遺跡の5件であった。 また、報告書については、『東山道駅路及び県連遺跡発掘調査報告書1』を発行し、令和元年度から令和5年度までの間に調査を行った宮沢遺跡、高の巣遺跡、中谷遺跡、小松原遺跡、石田遺跡、佐良土上の原遺跡上侍塚北古墳の成果を掲載した。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
	事業費計		25,305	19,377		
	財 源 内 訳	国庫支出金	0	0		
		県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
その他特定財源		0	0			
一般財源		25,305	19,377			
(c) コストの対前年比			76.57%			

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	①	自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	14
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質	達成率 b/a	効率性評価		
		単位				各指標評価	指標全体評価	
①	埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の箇所	3	5	1	増加指標	166.70	%	a
②					算定不可		%	a
③					算定不可		%	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質	達成率 d/c	有効性評価		
		単位				各指標評価	指標全体評価	
①	埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の報告書作成	3	7	1	増加指標	233.30	%	a
②					算定不可		%	a
③					算定不可		%	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	埋蔵文化財発掘調査事業 増加傾向にある埋蔵文化財の確認調査に対応するため令和5年11月に専門監(任期付)を雇用し対応に努めている。	
	前年度から の改善結果	改善した	埋蔵文化財発掘調査事業 専門監を雇用した結果、増加した確認調査を計画的に行うことができた。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	A	A	埋蔵文化財の緊急確認調査及び保存目的調査ともに適正に行われた。開発行為に伴う緊急調査については、以前に比べ急増したが、選任の学芸員及び専門員を雇用したため無事処理することができた。 保存目的調査については、前年度に引き続き佐良土上の原Ⅱ遺跡において実施したが、前年度確認された溝状遺構の延長が確認され、遺跡の規模を特定することができた。

5. 今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の 課題等	埋蔵文化財発掘調査事業 東山道駅路跡と磐上駅家の所在確認発掘調査の調査において、大学教授等からなる指導委員会の指導を受けている。委員会の指導を仰ぎながら事業を進めることは国・県との協議を円滑に進めるためには必須であるため、連絡調整を密にとることが必要になる。 開発行為に伴う確認調査が急増しており、計画的な対応が必要となっている。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	埋蔵文化財発掘調査事業 指導委員会の指導のもと、計画的に発掘調査を行う。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	新たに埋蔵文化財の専門の学芸員を採用したことにより、円滑に発掘調査を行うことができた。令和元年度から実施してきた発掘調査についても報告書にまとめることができた。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

事務事業名		市史編さん事業				事業番号	283	評価年度	令和7年度事業
担当名		部名	課名	係名		優先度	A	シート区分	総合計画
予算科目		会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	おたわら国造りプラン	
事業期間		□単年度 ■複数年度				(令和元 ~ 令和6 年度)			
		産業文化部	文化振興課	市史編さん係		政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	計画での位置付け	No.
		一般会計	10.05.01	0905	01	00	基本事業	(13)文化・芸術の振興	2
						施策	(13)文化・芸術の振興		13

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市民向けに、大田原市史を編さんする。市制70周年に向けた事業の一環として取り組むもので、昭和29(1954)年の旧大田原市誕生から市制70周年となる令和6(2024)年に至るまでの本市の70年間の歩みについて取り扱う。
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 旧市町村史誌編さん事業の成果を踏まえ、新たに現在までの歩みを加え書籍等にして刊行・公開することで、市民の本市への理解と愛着を深め、誇りを育て、本市の将来のまちづくりや市民生活に役立てるための契機とする。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 専門知識を有する学識経験者のほか、市民の代表者、関係機関・団体代表者、関係部署の職員等で構成する「市史編さん委員会」を設置し、市史編さん事業に係る重要事項について調査・審議する。また、委員会の中に専門部会を置き、学識経験者を中心に構成し、年次計画に従い調査・研究・執筆を行う。令和6(2024)年度に刊行を完了させる。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 旧市町村史誌の補完を目的とし、刊行物として、期間内に「市史 現代編」を1冊、郷土誌・自然・民俗について扱う「資料集」をそれぞれ1冊(計3冊)、研究成果を速報として公表するための「研究集」を毎年1冊刊行する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称		目標値の算出式(又は方法)		目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	市史編さん委員会の開催	開催回数		1	回
②			市史編さん専門部会委員等による会議・調査	実施回数		70	回	
③			広報周知活動	周知回数		12	回	
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	『市史編さん資料集第3集 大田原市の民俗』刊行	刊行冊数		1	冊	
		②	『大田原市史研究 第4号』の刊行	刊行冊数		1	冊	
		③	大田原市史セミナー	開催回数		1	回	

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	令和5年度の事業の成果品として、計画どおり『大田原市史資料集第3集 大田原市の民俗』及び『大田原市史研究 第4号』を刊行した。『大田原市史現代編(仮称)』を進めながら、並行して上記2冊を編集・刊行することは、時間的にも業務量的にも厳しいものがあったが、専門部会委員の先生方と連携し調整しながら期限内に刊行することができた。
(2) 備考	

(3) コスト計算	内容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
事業費計			8,861	6,645		
財源内訳	財源	国庫支出金	0	0		
		県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		その他特定財源	0	0		
		一般財源	8,861	6,645		
(c) コストの対前年比				74.99%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	① 自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	4	13
② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	3		
④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	3		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質	達成率 b/a	効率性評価		
		単位				各指標評価	指標全体評価	
①	市史編さん委員会の開催	1	1	1	増加指標	100.00 %	a	a
②	市史編さん専門部会委員等による会議・調査	70	141	1	増加指標	201.40 %	a	
③	広報周知活動	12	13	1	増加指標	108.30 %	a	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質	達成率 d/c	有効性評価		
		単位				各指標評価	指標全体評価	
①	『市史編さん資料集第3集 大田原市の民俗』刊行	1	1	1	増加指標	100.00 %	a	a
②	『大田原市史研究 第4号』の刊行	1	1	1	増加指標	100.00 %	a	
③	大田原市史セミナー	1	2	1	増加指標	200.00 %	a	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	今後予定している市史等の刊行に向けて、引き続き各専門部会の先生方(執筆者)と連絡調整を図りながら、編集業務を進めていく。また事務局においても校正等の補助作業を計画的に行う。各刊行物ともスケジュールがタイトなので、進行管理を徹底し期限内に刊行する。						
	前年度からの 改善結果	改善した	各専門部会の先生方と密に連絡調整を図り、計画的に編さん業務を進めることができたため、期限内に『大田原市史資料集第3集 大田原市の民俗』及び『大田原市史研究 第4号』を刊行することができた。また併せて、令和6年度の『大田原市史現代編(仮称)』の刊行に向けて、業者と業務委託契約を結び本格稼働させることができた。					
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等					
	A	A	計画通りに『大田原市史資料集第3集 大田原市の民俗』・『大田原市史研究 第4号』を刊行した。また、各専門部会委員による調査も当初の予定を上回る実施回数となり、それらを本文に反映することができた。 大田原市史セミナーについては、通常の講演会である「市史編さん調査報告会」のほか、資料集『大田原市の自然』の発刊を記念して、親子を対象とした「自然観察会」を実施し好評を得ることができた。					

5. 今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の 課題等	令和6年度は市史編さん事業最終年度であり、市制70周年記念式典に合わせて『大田原市史現代編(仮称)』を刊行し、併せて写真展「写真でみる大田原(仮称)」を開催する。また、年度末には『市史研究第5号』も刊行するため、タイトなスケジュールのなか計画的に市史編さん事業を進めていかなければならない。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	最終の市史刊行に向けて、引き続き各専門部会の先生方(執筆者)と連絡調整を図りながら編集業務を進めていく。また、事務局側においても史実の確認等の校正補助作業を計画的に進め、進行管理を徹底して期限内に事業を完了させる。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	市史等の刊行に向けて、引き続き各専門部会の先生方と連絡調整を図りながら編集・校正業務を行う。併せて、編さん事業全体の進行管理を徹底し、計画的に事業を進め年度内に事業を完了させる。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

事務事業名			なす風土記の丘湯津上資料館運営事業			事業番号	87	評価年度	令和7年度事業
						優先度	B	シート区分	総合計画
						計画	おおたわら国造りプラン		
担当名	部名	課名	係名			計画での位置付け			No.
	産業文化部	文化振興課	文化財係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2	
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興		13
	一般会計	10.05.05	0853	01	00	基本事業			
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 複数年度				(~ 年度)			

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 一般市民
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 歴史・文化についての教育を通して、地域理解や地域協力を推進し、ひいては国際理解・協力につなげることを目的とする。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 地域文化財の収集・保管、調査・研究、展示活動、教育・普及活動を行う。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 地域の歴史・文化への関心を高め、また文化財保護活動への参加を促す。

指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
(2) 指標設定	活動指標	① 企画展・特別展・関連行事等の開催	企画展・特別展・関連行事等の開催・前年度の実績	10	回
		② 講座・出前講座・出前授業の実施回数	講座・出前講座・出前授業の実施回数・前年度の実績	10	回
		③ 来館する小・中学校の学校数、来館団体数	子どもたち・一般観覧者への地域意識醸成・前年度の実績	15	回
	成果指標	① 企画展・特別展・関連行事等の来場者数	企画展・特別展・関連行事等の来場者数・前年度の実績	2,000	人
		② 講座・出前授業の参加者数	講座・出前授業の参加者数・前年度の実績	110	人
		③ 来館小中学校の児童・生徒数、団体来館者数	来館した小中学校の児童・生徒数・団体来館者数・前年度の実績	2,000	人

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	県事業との連携や一般来館者等からの需要・意見などを参考に施設の中長期計画を適宜見直し、計画に沿って、地域文化財の調査・研究活動を継続する。また、その成果を展示会や講座に反映させ、事業内容の充実を図った団体対応や講座事業募集など各種イベントを実施し、集客及び資料館の活動に関する広報・普及活動を積極的に行った。				
(2)備考					
(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度	
	事業費計		決算額	予算額	
	財 源 内 訳	国庫支出金	0	0	
		県支出金	0	0	
		地方債	0	0	
		その他特定財源	0	0	
一般財源		10,393	12,268		
(c) コストの対前年比			118.04%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	16
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
								各指標評価	指標全体評価
①	企画展・特別展・関連行事等の開催	10	回	12	1	増加指標	120.00 %	a	a
②	講座・出前講座・出前授業の実施回数	10	回	13	1	増加指標	130.00 %	a	
③	来館する小・中学校の学校数、来館団体数	15	回	53	1	増加指標	353.30 %	a	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
								各指標評価	指標全体評価
①	企画展・特別展・関連行事等の来場者数	2,000	人	2,407	1	増加指標	120.40 %	a	a
②	講座・出前授業の参加者数	110	人	293	1	増加指標	266.40 %	a	
③	来館小中学校の児童・生徒数、団体来館者数	2,000	人	2,164	1	増加指標	108.20 %	a	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		展示会や講座等の内容の充実のため、来館者や参加者からの意見を幅広く収集し、創意工夫しながら事業を計画する。活発な資料館活動を実現するため、ボランティアの受入だけでなく活動の場の提供や、地域資料の活用についても検討するなど、文化財を軸にした地域づくりへ積極的に取り組む。 また、広く周知するために、広報やホームページ、フェイスブック、よいちメール等を活用していく。
	前年度から の改善結果	改善した	展示会や講座等の内容の充実のため、来館者や参加者からの意見を幅広く収集し、創意工夫しながら事業を計画した。来館者やボランティア希望者の活動・交流の場の提供や、地域資料の活用について取り上げるなど、地域への還元を意識した事業を行った。 また、広く周知するために、広報やホームページ、記者への情報提供、よいちメール等を活用した結果、従来の利用者だけでなく多くの新規のお客様に来院いただいた。
	評価表から の評価	担当課 評価	評価の理由等
	A	A	研究内容や発掘調査の内容について展示会だけでなく講座イベント、図録や機関紙等の印刷物も作成し、積極的に発信するよう努めた。その結果、地域の方だけでなく県内外の方にも認知いただくことが増え、来館者も増加の傾向を示している。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	従前の入館者数の推移を維持しつつ、限られた人員・体制の中で持続可能な事業を展開する。企画展・特別展・講座・研修会等の充実を図る中で、特に、より地域住民との交流や地域づくりへの還元、「日本考古学発祥の地」についての意識形成を促す普及活動に注力する。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	展示会や講座等の内容の充実のため、来館者や参加者からの意見を幅広く収集し、創意工夫しながら事業を計画する。活発な資料館活動を実現するため、ボランティアの受入だけでなく活動の場の提供や、地域資料の活用についても検討するなど、文化財を軸にした地域づくりに積極的に取り組む。 また、広く周知するために、広報やホームページ、フェイスブック、よいちメール等を活用していく。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	展示会や講座等の内容の充実のため、来館者や参加者からの意見を幅広く収集し、活発な資料館活動を行う。また、ボランティアの受入だけではなく活動の場の提供や、地域資料の活用など、文化財を軸にした地域づくりに積極的に取り組む。館の活動を広く周知するため、広報やホームページ、フェイスブック、よいちメール等を積極的に活用していく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

事務事業名 ピアートホール管理運営事業	事業番号	95	評価年度	令和7年度事業			
	優先度	B	シート区分	総合計画			
計画 おおたわら国造りプラン							
担当名	部 名	課 名	係 名		計画での位置付け	No.	
	産業文化部	文化振興課	文化施設係		政策	2	
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	13
	一般会計	10.05.06	0880	01	00	基本事業	
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 複数年度 (~ 年度)					

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市民を中心とする、施設利用者・来場者を対象とする。 また、大田原市ピアートホールの構成施設のうち、文化ホールを対象とする。
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設利用者・来場者へ、自ら文化芸術に触れ、または活動する機会を提供する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 文化ホールの貸出事業を行い、文化芸術活動の場を提供する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設利用の促進を通じて地域文化芸術の継続的な普及振興を図る。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	貸出件数	前年度及び前々年度の件数の平均	170
②						
③						
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	貸出利用者数	過去5年分の最大・最小値除く3箇年の平均	6,700	人
		②				
		③				

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	主に市民を対象に、文化ホールの貸出事業を通じて文化芸術活動の場を提供する。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
事業費計			42,172	58,098		
財 源 内 訳	財 源 内 訳	国庫支出金	0	0		
		県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		その他特定財源	0	0		
		一般財源	42,172	58,098		
(c) コストの対前年比				137.76%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	4	13
② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	3		
④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	3		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	貸出件数	170	230	1	増加指標	135.30 %	a	a
②					算定不可	%		
③					算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	貸出利用者数	6,700	7,177	1	増加指標	107.10 %	a	a
②					算定不可	%		
③					算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	少ない人員ではあるが、工夫して環境整備に努めることにより魅力ある施設としつつ、ピアートホール自体を市民に対し周知を図りたい。	
	前年度から の改善結果	改善した	工夫して環境整備に努めることにより魅力ある施設としつつ、ピアートホール自体を市民に対し周知を図った。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	A	B	ホールの利用については、新型コロナウイルスが収束しつつあること、文化会館の貸出終了などによりピアートホールの貸出件数及び利用者数は増加傾向にある。 施設の管理に関しては、一部修繕や周辺整備を職員自ら直接施工するなどし、予算を節約することにより立木伐採等周辺整備を業務委託により実施することができた。

5. 今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の 課題等	ピアートホールは、郊外の小高い丘の上にある立地条件から、どの方角から来場するにも急な上り坂であり、小中学生など交通弱者の利用が難しい。公共交通機関としては関東交通のバスが市役所間で1日6往復、西那須野駅間が1日5往復あるが、いずれも収益が上がる市街地や公共施設があるルートのみであるほか、新幹線の発着駅である那須塩原駅からの直通が無く、利用者にとってアクセスが悪い立地であり、自家用車での来場が前提の施設と言える。 敷地面積が広いので、草刈りや庭木の剪定、倒木の処理にも予算的に限界がある。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	少ない人員ではあるが、工夫して環境整備に努めることにより魅力ある施設としつつ、ピアートホール自体を市民に対し周知を図る。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少していたが、徐々に回復してきている。総合文化会館ホールが使用できなくなり、その受け皿としてさらに、ピアートホールの利用が増えていくことが見込まれるため、利用者が安全に施設を利用できるよう修繕をしていく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

							事業番号	84	評価年度	令和7年度事業	
							優先度	B	シート区分	総合計画	
事務事業名							計 画	おおたわら国造りプラン			
担当名								計画での位置付け			No.
		部 名	課 名	係 名			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり		2	
		産業文化部	文化振興課	学芸企画担当			施策	(13)文化・芸術の振興		13	
予算科目		会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	基本事業				
		一般会計	10.05.06	0882	01	00					
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 複数年度		(~	年度)			

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対 象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 一般市民
	目 的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 郷土の歴史・文学・人文等に関する資料を収集及び保護活用し、郷土意識の高揚並びに教育及び文化の振興を図ることを目的とする。
	手 段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 郷土資料の収集・保管及び展示(常設展・企画展等)を行い、郷土資料に関する調査研究を継続し、郷土資料に関する講座等を開催する。
	成 果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 黒羽芭蕉の館の学芸活動に触れることで、郷土の歴史・文学・芸術に接することができ、郷土意識を高めることにつながる。

(2) 指標設定	指 標 内 容		指 標 名 称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位	
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	企画展等開催数	パネル展2回	2	回
②			講座等開催数	近世の版本で読む『おくのほそ道』、黒羽藩主大岡家の家譜を読む、黒羽古文書講座	25	回	
③							
成果指標		事業実施による最終的な成果・効果	①	黒羽芭蕉の館入館者数	令和5年度と令和4年度入館者数の比較	5,000	人
			②	講座等受講者数	令和5年度と令和4年度受講者数の比較	400	人
			③				

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	黒羽芭蕉の館を維持管理しながら、郷土資料の展示、調査研究、講座等を開催している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
	事業費計		7,466	9,914		
	財 源 内 訳	国庫支出金	0	0		
		県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		その他特定財源	0	0		
一般財源		7,466	9,914			
(c) コストの対前年比			132.79%			

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	16
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	企画展等開催数	2	2	1	増加指標	100.00 %	a	a
②	講座等開催数	25	25	1	増加指標	100.00 %	a	
③					算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	黒羽芭蕉の館入館者数	5,000	6,580	1	増加指標	131.60 %	a	a
②	講座等受講者数	400	463	1	増加指標	115.80 %	a	
③					算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	本年度については、新型コロナウイルス禍で2年間開催が中止となっていた紫陽花まつりが1週間ながら開催され、例年6月に7日設定していた無料開館日を5日設定することができたものの、思った程の入館者数の増加とはならなかった。それでも、今後とも受講者に「参加して良かった」と思ってもらえるような講座を継続実施したり、秋には企画展を開催したい。		
	前年度からの 改善結果	改善した	本年度については、紫陽花まつりも2週間開催され、例年6月に県民の日記念・全国俳句大会開催記念等として設定していた無料開館日を5日設定することができ、前年度よりも入館者数が増加した。また、展示室の照明のLED化も行うことができた。今後とも受講者に「参加して良かった」と思ってもらえるような講座を継続実施したり、春・秋には展示会を開催していきたい。	
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等	
	A	B	紫陽花まつりも開催され、無料開館日も例年並みに設定できたこともあり、観覧者数は目標を超えた。講座の受講者数も、目標を超えるところとなった。展示会や講座については、それぞれの内容的な充実と質の高さを維持することができたと考えている。	

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	新型コロナウイルス感染症については落ち着いた感があり、当館の入館者数などは少しずつ伸びているものの、引き続きPRに力を入れていく必要があると考えられる。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	本年度については、紫陽花まつりも2週間開催され、例年6月に県民の日記念・全国俳句大会開催記念等として設定していた無料開館日を5日設定することができ、前年度よりも入館者数が増加した。今後とも受講者に「参加して良かった」と思ってもらえるような講座を継続実施したり、春・秋には展示会を開催していきたい。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	今後も館のPRのため、6月に県民の日記念・全国俳句大会開催記念等として数日の無料開館日を設けたり、黒羽地域の歴史・文化に光を当てる企画展・テーマ展等の展示会や各種講座を継続して実施していく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

	事業番号	85	評価年度	令和7年度事業				
	優先度	B	シート区分	総合計画				
事務事業名	文化振興事業			計 画				
				おおたわら国造りプラン				
担当名	部 名	課 名	係 名					
	産業文化部	文化振興課	文化振興係					
	計画での位置付け			No.				
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
	一般会計	10.05.06	0883	01	00	施策	(13)文化・芸術の振興	13
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 複数年度		(~	年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市内の各種芸術活動を展開する団体
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 市民が質の高い芸術に触れる機会の充実と、市民が主体的に文化芸術活動に参加できる機会を提供することを目的とする。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 各芸術活動団体に補助金を交付し、各種団体の活動支援を行う。市民がより質の高い文化・芸術を創り出し、文化・芸術に触れる機会を身近なものにする。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 各芸術活動団体に補助金によって、優れた芸術作品の鑑賞、創作の機会を提供することにより、文化・芸術を身近なものとする。また、市民の文化・芸術に対する理解を深め、地域文化を振興する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位	
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	補助事務件数	昨年度実績より算出	7	件
②							
③							
成果指標		事業実施による最終的な成果・効果	①	補助文化団体数	令和5年度予算より算出	7	団体
			②				
			③				

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	文化・芸術に対する意識の高揚並びに教育及び文化の振興を図るため、各種文化芸術団体の活動を支援している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
事業費計	財 源 内 訳	国庫支出金	0	0		
		県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		その他特定財源	0	0		
		一般財源	10,821	11,070		
		(c) コストの対前年比			102.30%	

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	3	12
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	3		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	3		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	補助事務件数	7	8	1	増加指標	114.30 %	a	a
②					算定不可	%		
③					算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	補助文化団体数	7	8	1	増加指標	114.30 %	a	a
②					算定不可	%		
③					算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	団体によっては、安易な補助金の増額を要望してくるなど、補助金ありきの団体運営になっているため、補助金の役割を丁寧に説明していく必要がある。 また、文化事業実行委員会の中には、自らの実施イベントであるにも関わらず、市主催のイベントを手伝っているという認識の委員も散見される。主催団体としての自発的な活動となるよう、意識面での改善を促していく必要がある。		
	前年度からの 改善結果	改善した	主催団体としての自発的な活動となるよう、意識面での改善を促した。	
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等	
	A	A	コロナ禍には、各団体とも活動を縮小していたが、年度の後半から徐々に活動を再開してきた。各文化芸術団体や文化事業実行委員会に対する運営費補助金の交付によって、各団体の運営が円滑に展開され、積極的な活動につながるよう、支援することができた。 各団体とも事業の中止や縮小によって不用額が生じる場合は、減額の手続きをとるなど適正な運用がなされていた。	

5. 今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の 課題等	補助金の交付は、団体の文化振興活動を支援する役割を担っているが、その一方で、団体自体が運営に当たって補助金に依存してしまう傾向も見られる。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	団体によっては、安易な補助金の増額を要望してくるなど、補助金ありきの団体運営になっているため、補助金の役割を丁寧に説明していく必要がある。 また、文化事業実行委員会の中には、自らの実施イベントであるにも関わらず、市主催のイベントを手伝っているという認識の委員も散見される。主催団体としての自発的な活動となるよう、意識面での改善を促していく必要がある。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	団体の運営費補助金交付事務については、円滑、適正に進められている。 今後は団体の活動がさらに本市の文化振興に寄与できるよう、補助対象事業の内容についても見直しを検討していく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

							事業番号	86	評価年度	令和7年度事業	
							優先度	B	シート区分	総合計画	
事務事業名	与一伝承館管理運営事業						計 画	おおたわら国造りプラン			
担 当 名	部 名	課 名	係 名			政策		計画での位置付け		No.	
	産業文化部	文化振興課	文化施設係			政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり			2		
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13			
	一般会計	10.05.06	0884	01	00	基本事業					
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 複数年度		(~	年度)			

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対 象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 ①那須与一を始めとする大田原市に関する資料の収集、保存、展示を行い、市民に公開する。 ②多目的ホールの貸館を行う。
	目 的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 ①那須与一を始めとする大田原市に関する資料の収集、保存、展示を行い、市民の教養を高め文化の振興に寄与するため。 ②市民に文化活動の場を提供するため。
	手 段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ①収蔵資料の調査研究及び教育普及事業(特別企画展・テーマ展)を実施する。 ②施設の維持管理及び貸館を行う。
	成 果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 ①入館者数の増加及び図録等の売上げによる歳入の増加を図る。 ②効率的な貸館事業を行い、使用料による歳入の増加を図る。

(2) 指標設定	指 標 内 容		指 標 名 称	目 標 値 の 算 出 式 (又 は 方 法)	目 標 値	単 位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	企画展の実施	特別企画展・テーマ展の実施	1
②			多目的ホールの貸館	使用回数(貸出回数)	50	回
③						
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	那須与一伝承館入館者数	年間の入館者数の総数	10,000	人
		②	多目的ホールの使用料	使用料の総額	500,000	円
		③				

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	令和5年度は、前年度と同様に企画展及び講演会等教育普及事業を4回開催した。さらに、前年度好評を得た「なつのよいち」という小中学生対象のイベントを今年度も開催した。 各入館者数や講演会等の参加人数は、コロナ禍前の78%となる前年比の20%増で、回復傾向にある。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
事業費計			23,059	27,938		
財 源 内 訳	国庫支出金		0	0		
	県支出金		0	0		
	地方債		0	0		
	その他特定財源		0	0		
	一般財源		23,059	27,938		
(c) コストの対前年比				121.16%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	①	自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	14
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	企画展の実施	1	3	1	増加指標	300.00 %	a	a
②	多目的ホールの貸館	50	71	1	増加指標	142.00 %	a	
③					算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	那須与一伝承館入館者数	10,000	10,750	1	増加指標	107.50 %	a	a
②	多目的ホールの使用料	500,000	711,050	1	増加指標	142.20 %	a	
③					算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正・改善 等)	大田原の郷土について知ってもらうため、市内各地区を調査し、その成果を紹介する展示会で、「親園地区」を開催し、さらに小中学生等にもPRを行っていく。 企画展、テーマ展や常設展において、QRコード化やキャプションなどの見せ方等、誰もが見てわかるような展示の仕方をさらに研鑽していく。						
	前年度からの 改善結果	改善した	「親園地区」を特集する展示会を開催し、市内外に郷土の歴史や文化の魅力を発信した。また、大田原の郷土についても知ってもらうための小中学校等対象事業をさらに拡充したイベントを開催し、教育普及活動やPR事業にも努めた。さらに、企画展やテーマ展、常設展において二次元バーコードの設置やキャプションのデザイン変更を行い、誰もが見てわかる展示手法を実践した。					
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等					
	A	A	新型コロナウイルスの影響が薄れてきているものの、来館者数や貸館の利用回数等はコロナ禍前の状況には戻っていない。しかし、特定の地域を取り上げた企画展を開催するなど、市民や来館者のニーズに合ったテーマのイベントを企画し開催するなど、郷土の歴史や文化の普及に貢献している。					

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	扇の的劇場を上映するためのプロジェクターランプには、2千時間という使用可能時間があり、なおかつ、そのランプも生産終了となり、伝承館にある在庫のみで運用しなければならない状況にある。扇の的劇場の設備更新を考えなければならないが、プロジェクターランプの他にも人形も経年劣化し、駆動音が大きくなってきたり、動きがおかしくなったりする等、故障の頻度も増加している。今後の運営について、人形劇ではなく映像に変更するなどの方針を決めて行かなければならない。また、伝承館内の照明のLED化も検討していかなければならない。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	大田原の郷土について知ってもらうため、小中学生等にもPRを行っていく。 企画展、テーマ展や常設展において、二次元バーコードや動画の活用を行うとともに、キャプション等パネルや資料の見せ方についても引き続き検討することで、誰もが見て理解できる、さらには楽しむことができる展示手法について検討し、実践していく

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少していたが、徐々に回復してきている。さらなる回復増を図るため、日頃から大田原市に眠る資料調査を行い、その資料の展示の仕方など、見せ方を工夫・研究していく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

		事業番号	89	評価年度	令和7年度事業			
		優先度	B	シート区分	総合計画			
事務事業名	大田原市芸術文化研究所管理運営事業				計画	おおたわら国造りプラン		
担当名	部名	課名	係名		計画での位置付け	No.		
	産業文化部	文化振興課	文化振興係		政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2	
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	10.05.06	0885	01	00	基本事業		
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 複数年度		(~ 年度)				

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対 象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 芸術活動を行う作家や一般市民
	目 的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 芸術に触れる機会を提供する。 作家と市民との交流の拠点として、活動の場を提供する。
	手 段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 展覧会や講座の開催、インターネットによる情報発信
	成 果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 芸術について造詣の深い、又は高い技術をもった市民の育成

(2) 指標設定	指標内容		指標名称		目標値の算出式(又は方法)		目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	展覧会の開催	開催回数		2	回
②			芸術講座の開催	開催回数		40	回	
③								
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	来場者数	前年度に開催した展覧会の来場者数		800	人	
		②	受講者数	前年度に開催した芸術講座の受講者数		20	人	
		③						

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	文化、芸術を総合的に研究するとともに、作家と市民との交流の拠点として、その活動の場を提供している。また、ゲタ箱展、研究員展の展覧会の開催や芸術講座を実施している。展覧会は公式SNSを活用し周知を図るとともに、Web上でも作品を公開している。 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて来場者数は減少したものの徐々に回復している。
(2)備考	デザイン性が高い建物であるためか、雨漏りによる被害が多数ある。修繕するにも高額で手が付けられない。建築から25年以上が経過しているため、建物の老朽化や設備の経年劣化がみられる。

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
事業費計			4,785	5,739		
財 源 内 訳	国庫支出金		0	0		
	県支出金		0	0		
	地方債		0	0		
	その他特定財源		0	0		
	一般財源		4,785	5,739		
(c) コストの対前年比				119.94%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	3	12
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	3		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	3		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	① 展覧会の開催	2	2	1	増加指標	100.00 %	a	a
②	② 芸術講座の開催	40	65	1	増加指標	162.50 %	a	
③	③				算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	① 来場者数	800	754	1	増加指標	94.30 %	a	a
②	② 受講者数	20	27	1	増加指標	135.00 %	a	
③	③				算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	事業実施に影響がでないよう、適切な修繕に努める。	
	前年度から の改善結果	検討中	施設全体の雨漏り状況を把握し、予算の範囲内で対応している。 大々的な改修には高額な費用が掛かるため、年度事業に影響ない範囲で調整している。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	A	A	文化、芸術を総合的に研究するとともに、作家と市民との交流の拠点として、その活動の場を提供している。また、ゲタ箱展、研究員展の展覧会の開催や芸術講座を実施している。展覧会は公式SNSを活用し周知を図るとともに、Web上でも作品を公開している。 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて来場者数は減少したものの徐々に回復している。 本市の文化芸術の拠点としての活動推進が図られている。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	自然豊かな場所にあり、デザイン性の高い施設であるため、制作活動には最適な環境だが、車以外が交通手段の来場者にとっては、アクセスがやや不便である。 施設の雨漏り等修繕が必要となる箇所がいくつもあがるが、修繕費が高額であるため手をつけられない。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	デマンド交通の案内をする。 事業実施に影響がでないよう、適切な修繕に努める。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.22	A	文化、芸術を総合的に研究するとともに、作家と市民との交流の拠点として、その活動の場を提供している。また、ゲタ箱展、研究員展の展覧会の開催や芸術講座を実施している。展覧会は公式SNSを活用し周知を図るとともに、Web上でも作品を公開している。 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて来場者数は減少したものの徐々に回復している。 本市の文化芸術の拠点としての、活動推進が図られている。